

# ちばだい プレス

CHIBADAI  
PRESS

千葉大学  
広報誌

2023

VOL.

62

SPRING



特集

## 千葉大学のキャンパスライフ 2023

留学を経験した学生に聞いてみよう！

### 「全員留学」ってどんな感じ？

千葉大学 OBOG インタビュー

研究者インタビュー — CHIBADAI NEXT より —



CHIBA UNIVERSITY

# CAMPUS

# S LIFE 2023

キャンパスライフ

千葉大生は、どんなキャンパス  
4人の千葉大生がコロナ禍での授業や課外活

## 自分の将来の夢を 見つけることができました

林 真帆 (はやし・まほ) さん  
法政経学部 法政経学科 3年  
千葉県立東葛飾高等学校 出身

キャンパスライフ  
一問一答

Q. アルバイトは?  
A. 予備校、カフェ

Q. ランチは?  
A. 西千葉駅前の  
ごはん屋さんか、  
ライオンで買って  
食べています。

Q. お気に入りの場所は?  
A. 図書館(様々な用途  
で利用できるから)

### Snapshot!



コロナ禍で友達との関係が希薄になる中、千葉大学サッカー同好会での活動が大切な思い出になりました。写真は同好会の同期メンバーで旅行したときのもの。

## コロナ禍でのキャンパスライフ オンライン留学に参加

私が進学先に求めたのは、自分の将来について考え、やりたいことを見つけられる国立大学であること。千葉大学法政経学部は2年次に法学、経済学、経営・会計系、政治学・政策学のいずれかのコースを選ぶことができるので希望にあっていて考えました。自宅からも近く、通学しやすいことも決め手になりました。

しかし、私のキャンパスライフはコロナ禍により、思い描いていたものとはだいぶ異なるスタートとなりました。授業はオンライン中心となり、希望していた留学もオンラインでの参加となりました。カナダのレジャイナ大学の講義に週2回オンラインで参加し、現地の学生と自分の好きなこと、困っていることなどを話しました。英語に苦手意識がありましたが、このプログラムを通して英語力が身に付き、オンラインでの対話にも慣れるきっかけとなりました。

## 経営学ゼミで仲間と 資料づくりに取り組む

3年生になってからは対面授業が増え、ゼミの活動にも力をいれています。所属する経営学ゼミでは、経営学に関する本の輪読、企業の経営分析と戦略提案を行っています。班単位で行われる発表では、仲間と協力し合い時間をかけて資料づくりを行います。大変な作業ですが、その分完成したときの喜びは大きいのです。

現在は就職活動中です。大学生になるまでは自分がやりたいことについて何も決まっていませんでしたが、大学での生活、アルバイトなどの経験を通して、誰かの人生に関わりたい仕事かと思いつき、その中でビジョンを決め今は就職活動を行っています。誰かの人生に寄り添うことのできる存在になれるよう、日々成長できる社会人になりたいと思っています。

ライフを送っているのでしょうか。  
動について、等身大の声を聞かせてくれました。

## 宇宙物理学と西千葉の 自然に惹かれ千葉大学へ

私は日本に来た3年目の春に千葉大学に入学しました。進学先を選ぶことで重視したのは、主に研究したい分野に該当する研究室の有無と、キャンパスの自然環境でした。そこで国立大学のうち外国人入試日程が一番早かった千葉大学を調べたところ、私が興味を持つ宇宙物理学に関する研究をしているハドロン宇宙国際研究センター(ICEHAP)が目にとまりました。さらに、実際に西千葉キャンパスを見学してみたところ、緑いっぱいの美しい風景に心が惹かれました。

入学後すぐコロナ禍が始まり半年近く大学に入らず、少しがっかりしましたが、今では入構制限も解除され、大学は賑やかになっています。

## 多角的な視点を持ち 情報を集める力をつける

物理学の専門科目は、主に講義(知識を学ぶ)と演習(知識を応用する)に分けられ、講義では数学や物理の課題に取り組みます。私の場合、ほぼオンライン授業でしたが、同時双方向授業も少しありました。オンライン授業の良いところは柔軟にスケジュールを組めること、困ったことは、わからないときにすぐに質問できないことです。私は友人や先輩に聞いたりして疑問を解消しました。

大学の学習過程では、知識・情報を収集する能力が鍛えられました。一つのテーマの中で、目的・原理・手法・結論・応用といった様々な段階における理解が求められますが、膨大な情報の中からそのテーマを理解するための必要な情報を割り出し、短時間でそれを収集できる力が大事だと感じています。

今後は、物理学の勉強をさらに進め、大学院に進学して、研究員として活躍したいと考えています。

## 中国から物理学を学びに留学 研究員としての活躍を目指します

張 道揚 (チョウ・ドウヨウ) さん  
理学部 物理学科 3年  
中国山西省 出身

キャンパスライフ  
一問一答

Q. 通学時間は?  
A. 徒歩5分

Q. ランチは?  
A. ライフセンターか食堂

Q. お気に入りの場所は?  
A. 図書館3階の展望台(夕焼け観賞の絶好スポット)

### Snapshot!



普段から写真を撮るのが好きで、いつの間にかたくさん思い出を撮っていました。写真は、真っ白に染まった西千葉キャンパス。雪深いふささを思い出しました。

## 韓国から千葉大学へ「看護」を学ぶため留学

大学入学まではずっと韓国に住んでおり、大きな都市に隣接していること、交通の便が良く、帰省しやすいことなどを条件に留学先を探していました。そんな中、グローバル人材の育成を掲げている千葉大学を知りました。私は小さい頃の経験から看護師を目指しており、千葉大学看護学部が国立唯一であり、看護師資格を持つ優れた指導者がいること、特に「男子学生大歓迎」ということだったので最終的に千葉大学を選択しました。

私自身は病院に入院したことがなく、看護師とはどのような仕事なのか、病院の中でどのような役割を持っているのか、あいまいなイメージしかありませんでした。しかし、「看護学原論」や「IPE(専門職連携)」などの授業、薬学部・医学部・看護学部・医療工学との連携授業を通して患者中心の医療やチームビルディングなどを経験しつつ、自分の中の看護を成立することができました。

### グループワークを通してチームを引っ張る存在に成長

看護学部は80人程度の学生が在籍しており、2年生からは亥鼻キャンパス

で過ごす時間が多くなり、広い教室で同学年の学生と一緒に同じ授業を受けることが増えます。講義の中でグループワークやパワーポイントを活用した発表も活発に行われることから、同じ学年同士で協力する経験もできます。もともと自分から声をかけることが苦手な私でしたが、経験を重ねることでチームを引っ張る存在として成長できました。

今後はこのまま日本の大学病院に就職してキャリアを積みたいと考えています。その後は語学の勉強をして、さらに他の国に行って看護師として働くことが目標です。

## 看護師としてのキャリアを積み将来は世界で活躍したい

YEON RYUNGOO (ヨ・リュング) さん  
看護学部 看護学科 3年  
Yeongdeok High School (韓国) 出身

### キャンパスライフ 一問一答

Q. 通学時間は?  
A. 徒歩20分、または自転車10分

Q. お気に入りの場所は?  
A. 看護学部棟のリフレッシュルーム(休憩やグループワークで活用)

Q. 所属サークルは?  
A. 千葉大学医看軟式テニス部に所属

### Snapshot!



看護学部男子3人で函館旅行に行きました。初めて日本の温泉に入り、入浴マナーや浴衣など多様な体験ができました。最近3人で集まる機会が少ないので、いつかまた集合したいです。

## サークル活動を通して他学部の友人と交流

私は北海道出身ですが、非常に寒がりなので暖かそうな関東に進学したいと考えていました。その上で、興味のある昆虫関係の大学を調べていく中で、千葉大学園芸学部を見つけ、応用昆虫研究室を目指しました。

千葉大学の魅力は総合大学であることです。10の学部があり、単科大学では出会えない全く別の学問を学ぶ人々と交流できます。私自身もサークル活動を通して、他学部の友人ができ非常に刺激を受けモチベーションを得ています。

先輩の中には、入学後にやりたいことを見つけて転部した方もいました。

また、教授の質の高さも魅力です。専門分野への理解が深いことはもちろん、人間的にも教育者としても非常に素晴らしい方が多いと感じています。学業や進路についてもとても親身になって相談にのってくださり、ときには一緒に雑談に興じることもあります。

### 応用昆虫学研究室に所属し、大学院への進学を目指す

園芸学科生物生産コースに所属し、主に農業について勉強しています。以前はオンライン授業中心でしたが、現在は

半分くらいが対面授業です。高校までは受動的な学習姿勢で問題ありませんでしたが、大学では能動的に行動しないと新しい学びを得られないということを実感しました。特にオンライン授業では、興味がない分野だと義務的な視聴になってしまうがちで身に付きません。そこで、その分野を専攻している友人に、どこに魅力があるのかを聞くなどして興味を持つようにしました。

2022年夏からは応用昆虫学研究室に所属し、研究に取り組んでいます。この研究室で自分なりのテーマを見つけ、大学院に進学することが近い将来の目標です。

## 能動的に行動する大切さを知り、学びと友人を得られました

武藤 悠陽 (むとう・ゆうひ) さん  
園芸学部 園芸学科 3年  
北海道札幌手稲高等学校 出身

### キャンパスライフ 一問一答

Q. ランチは?  
A. 友人と学食

Q. アルバイトは?  
A. 塾講師

Q. 自習はどこです?  
A. 研究室

### Snapshot!



松戸キャンパスでは春になると桜が咲きます。北海道では4月に桜は咲かないので入学して初めて見たときは非常に感動しました。

留学を経験した学生に聞いてみよう!

# 「全員留学」ってどんな感じ?

コロナ禍において、オンラインプログラムを充実させることで推進してきた「全員留学」。2022年夏に渡航プログラムの一部が再開し、2022年度は夏季と春季あわせて、25のオンラインプログラムを約900名が受講、35の渡航プログラムを約700名が受講しました。実際に留学を経験した学生の声から、あなたも「全員留学」のイメージをふくらませてみませんか?

## 長期(千葉大学海外派遣留学プログラム)の場合

国際教養学部 3年 行徳 玲さん  
 留学先 ユヴァスキュラ大学(フィンランド)  
 留学期間 2022年1月~(半年間)

渡航までの過程も含めて自分の成長に繋がります。そして、留学先では自分の叶えたい目標や夢を実現できる可能性に満ちあふれています!ぜひ皆さんも世界に出て、たくさんの経験を積んでください。



## 短期(全学募集留学プログラム)の場合

理学部地球科学科 2年 大原 江梨花さん  
 留学先 レジャイナ大学(カナダ)  
 留学期間 2022年8月~(3週間)

英語に自信のない私でも、思い切って渡航したことで現地の方と交流することができました!何をするにも小さな勇気が必要であると、この留学を通して強く思いました。



留学するなら長期で行きたいと思っていたので、学内で募集していた2022年度春期海外派遣留学プログラムに応募して参加しました。

コロナの感染拡大状況によっては、留学が中止になる可能性もあったため、本当に行けるのかという不安は直前までありましたが、留学に行けた場合と行けなかった場合、いずれの状況になっても学業に支障がないように万全の準備を行いました。コロナ禍のリスク管理のために現地の情報を常にアップデートし続ける作業を通して、情報収集能力もかなり向上したと感じます。

派遣留学の候補生に決まってからは、留学生課の担当の方と個別に手続きや渡航準備を進めました。とても親身に丁寧に対応していただいたので、渡航前後で困ることはほとんどありませんでした。留学期間中、留学生課へ提出する

▼学生寮の近くから撮ったオーロラ。



▲ラップランドに出かけた際にそりを引くハスキーと一緒に。

月間報告書も毎月楽しく書くことができました。

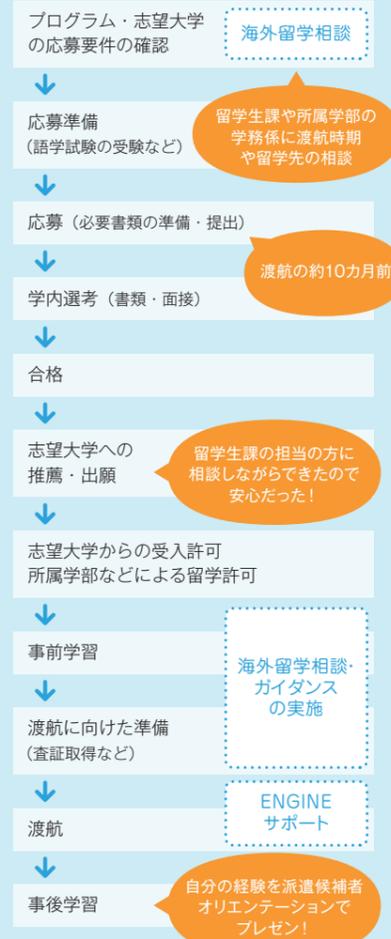
ユヴァスキュラ大学では、Faculty of Sport and Health Science(スポーツ健康科学部)の授業を受講しました。学期末にはレポートやテストなどのほか英語でのプレゼンテーションが課されるものもあり、私の場合は“Football through an Academic Lends(サッカーを学術的な視点から見る)”と“Sport, Globalization and Multiculturalism(スポーツにおける国際化と多文化主義)”という2つの科目で期末プレゼンテーション発表がありました。レジュメを見ないで専門的な内容を発表できるように、当日までに何度も論文を読み返して練習を繰り返しました。その甲斐もあって当日はしっかり発表をやり遂げ、無事に単位を得ることができました。

学生寮には、学食・ジム・サウナがあり、学習のためのパソコン室や印刷機なども揃っていて非常に快適でした。寮の近くからはオーロラも見ることができて感動しました。冬はマイナス20度になる日もあり、外出時は防寒対策が必須でしたが、サウナ後の外気浴は格別でした…!

また、現地の学生の多くが平日は夕方まで授業や課題に勤しみ、金曜の夜からはパーティーや遊びに繰り出すなど、メリハリをつけるのが上手いと感じました。遊ぶ時は夜通し遊び、平日は図書館に缶詰め状態になるギャップ感が私はいいなと思いました。

この留学を通して英語力を向上できたことはもちろんのこと、たくさんの貴重な経験は一生忘れられない思い出になりました。

### 留学までのおおまかな流れとサポート体制(行徳さんの場合)



オンライン留学の選択肢もありましたが、せっかく機会があるのだから現地に行きたいという気持ちが決め手で渡航を伴う留学を選びました。

数週間にわたる海外渡航は初めてで、最初は事前にどんな準備が必要かわからず、さらにコロナ禍で本当に渡航できるのかという不安もありました。だからこそ、大学で行われるガイダンスにはきちんと参加し、自分でもいろいろと調べて、不安を一つずつ解消するようにしました。

留学にあたり、大学のENGINEサポートによる渡航費などの支援は本当に助かりました。そのほかの奨学金についても大学から案内してもらえたので、組み合わせることで負担をさらに抑えることができました。また、渡航直前にコロナに罹ってしまった際にも、スムーズに出入国できるように書類の手配などをしてくださったおかげで、無事に渡航することができました。

レジャイナ大学のプログラムは、英語が苦手なリスニングやスピーキングなどのコミュニケーション能力を伸ばしたいと考えていた私にぴったりの内容でした。寮生活で一人部屋が与えられ、食事は食堂に行って三食ビュッフェスタイルでいただきました。平日は5時間ほど授業を受け、それ以外の時間は授業中に出た課題に取り組みんだり、外へ出かけたりと自由に過ごしました。現地の学生が企画してくれたスポーツや映画鑑賞に参加することもできますが、私は現地の雰囲気や観光に出かけることが多かったです。休日はフィールドトリップで、バスに乗ってあちこ

ち連れて行ってもらい、ガイド付きの観光や見学を通じて見聞を広めることができました。

授業では主にプレゼンテーションの練習を行いました。慣れない英語を使うので本当に大変でした。けれど、帰国後に学内で行った日本語でのプレゼンテーションで、渡航前よりずっと上手く発表できたことを実感し、また、多くの方から感心してもらうことができました。英語以外の力も向上させることができ、嬉しい誤算です。

この留学を通して、英語を話す勇気を得ることができました。簡単な質問ですら英語では咄嗟に口に出せなかった私ですが、プログラムを通してリスニングやスピーキングの能力が向上し、リアクションも的確に返すことができるようになりました。簡単な英語であっても、現地の人と面と向かって交流した実感の積み重ねが自信に繋がって、英語に対する意識を変えてくれました。

▼レジャイナを代表するワスカナ湖。奥に見えるのが州議事堂。



◀ 班のメンバーと湖でカヤックに挑戦。

### 留学までのおおまかな流れとサポート体制(大原さんの場合)



## 千葉大学のオンライン留学プログラム

現地の学生・教職員との協働学習、バーチャルツアーによる現地視察、オンラインホストファミリーなどとの交流など、渡航プログラムの内容に近い形で実施できるように構築しています。渡航が困難な学生も国際教育の機会を得られやすいこと、地理的・費用的な理由により渡航が難しい国・地域のプログラム実施が可能であることといった、オンライン留学ならではの良さがあることに着目し、渡航を伴う留学の推進とあわせて、引き続きオンライン留学でも充実した学びの機会を提供できるよう努めてまいります。

英語の学習意欲が高まった。プログラム実施大学・渡航留学への興味が湧いた。

初めはオンライン留学ってどうなんだろうと思っていたが、やってみると、とにかくまずは話し始めてみるという感覚を思い出すことができました。オンライン留学を選んで正解だった。

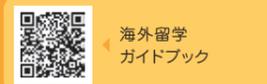
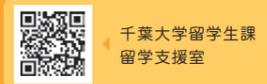
## 千葉大学の主な留学サポート体制

**海外留学相談**  
 事前予約制で本学が実施する留学に関する相談に個別で応じます。

**ガイダンスの実施**  
 安心・安全な留学を実現するための準備として、危機管理ガイダンスや渡航前オリエンテーションを行います。

**ENGINEサポート**  
 在学中の初回の留学に対して、経済的支援(渡航費として上限5万円およびプログラム受講料の一部を大学で負担)を行います。

留学サポートやプログラムなどの詳細はこちら!



ミステリー小説の世界で常に変化を続け  
作品の幅を広げながら新しい挑戦を続けてきた芦沢央さん。  
デビューまでの経緯や創作スタイル、学生に向けたメッセージ  
などを語っていただきました。

### 高校時代に小説家を志し 投稿活動を経てデビューへ

—小説家を目指したきっかけを教えてください。

芦沢 文章や創作物には子どもの頃から親しんでいたのですが、原点はいくつかあります。幼稚園の頃に友達としていた交換日記は途中からリレー小説のようになっていましたし、小学校高学年では兄が読んでいた推理マンガが好きで、兄と犯人当てゲームをしたり、ちょっとしたミステリー小説を書いてみたこともありました。中学、高校と進むと、山田詠美さんやよしもとばななさんのような純文学に惹かれるようになり、私自身も純文学系の小説を書き始めました。ちょうどその頃、高校の夏休みの宿題で、小説の新人賞に応募するというものがあり、応募してみたらずい選考を通過。根が単純なので、調子に乗って次々に書いては新人賞に応募するようになっていきました。といっても、すぐに芽が出るわけもなく、大学、就職を経て、デビューするまでは12年かかりました。

—デビューが決まるまでの経緯を教えてください。

芦沢 大学は千葉大学の文学部史学科に進みました。史学科を選んだ理由は、高校3年生だった2001年9月11日にアメリカ同時多発テロが発生し、中東の歴史に興味を持ったからです。在学中も小説家になりたいという夢は持っていて、文学部内の同人誌に参加したり、結果はなかなか出ませんでした。純文学系の小説誌に投稿したりしていました。ちなみに、当時の同人誌仲間からは、私も含めて3人のプロ作家が生まれています。大学を卒業していったんは出版社に就職しましたが、これも本に関わる場にいたかったからです。デビューできない時期が長くなると、時には諦めそうになることもありましたが、自分が本当に書きたいものが何なのかに向き合い続けた結果、純文学ではなく仕掛けやどんでん返しのあるエンターテインメント小説という自分なりの答えが見つかりました。そうして書いた長編作品『罪の余白』が第3回野性時代フロンティア文学賞に選ばれ、これが私のデビュー作となりました。

### 倫理観の変化をとらえた 10周年記念の長編作品

—ご自身の創作スタイルについて教えてください。

芦沢 デビュー以降、短編と長編をほぼ交互に書いています。イメージでいうと、短編は手をかけた料理をどこから見ても美しくなるように盛り付ける感覚で、長編は初めて訪れる建物で見取り図を描きながら全体を把握していく感覚。つまり、まったく別物なんです。陸上競技の短距離と長距離のように、書くときに使う「筋肉」が違うので、交互に鍛えることで、表現の幅も広がりますし、自分の文章に目が届くようになったという実

感があります。

—テーマはどのように着想されるのでしょうか。

芦沢 私の場合は最初に詳細を決めず、関心のあることや引っかかったことについて、とにかく書いていくという手法をとっています。例えば最新の長編『夜の道標』は、1998年を舞台に、現代から見れば倫理的に違和感を覚えるような場面を積み重ねていくことで、その違和感の先にあるものを見極めようとした作品ですが、着想のきっかけになったのは、時代とともに変化する倫理観に怖さを感じたことでした。小説家という仕事は作品が後々まで残ります。社会の倫理観が変化していくと、いつかは私が書いた本を私自身が許せないと感じることもあるかもしれません。この本を書いた昨年はちょうどデビュー10周年だったこともあり、小説家としてどうしてもこのタイミングで書いておくべき作品だと思いました。

### 大学時代に理解できなかった 中東を題材にした作品に挑戦

—今後、書きたい作品の構想はありますか。

芦沢 大学時代に専攻した中東史をベースに、パレスチナ問題をテーマにした小説を書きたいと考えています。学生当時、学んでも学んでもまったく理解できずに卒業してしまった苦い思いがあるのですが、小説は実際にそこに生きている人を描くので、論文をただ読むだけだった学生時代とは違う景色が見えてきます。正直、小説のためにパレスチナ問題を選んだというよりは、私自身が人生の中で考え続けたい、もっと知りたいから、小説を使って向き合うことにした、という感覚です。これまでの書き方では書けないので、今はシーンを書く前に短歌を作って思考や表現を圧縮してから、それを捨てて書くという創作法に挑戦しています。

—最後に学生へのメッセージをお願いします。

芦沢 大学時代を振り返ってみると、興味があることを試しにやってみるのにあれほど適した時期はなかったと感じます。最近とはとにかく最短で結果を出さなければならないような風潮が強くなっていますが、結果よりも過程から得られるものこそが長い時間自分を支えてくれると思います。卒業までの時間が減っていくことに焦ることもあるかもしれませんが（私がそうでした）、過程さえ経験していれば卒業後に積み重ねることのできるから大丈夫。自分がその行動に納得できるかを軸にしながら、ぜひ自由楽しく、たくさん遊んでください。

10周年記念作品の『夜の道標』では、四半世紀前の倫理観を表現するために、現代から見ると違和感のあるディテールを積み重ねることで、小説の世界をつくり上げた。



小説家デビュー10周年を超えて新たな挑戦へ  
題材として取り上げたいテーマは  
千葉大学時代に学んだ中東パレスチナ問題

小説家

芦沢央さん

芦沢 央(あしざわ・よう)

小説家。千葉大学文学部史学科卒業。出版社勤務を経て、2012年、『罪の余白』で第3回野性時代フロンティア文学賞を受賞しデビュー。『許されようとは思いません』『汚れた手をそこで拭かない』『神の悪手』など人気作多数。2022年にデビュー10周年を迎えた。最新作は長編『夜の道標』。

# 子どもを中心に置いた 支援と学校運営を ～こども家庭庁の創設に寄せて

千葉大学 教育学部 教授 /  
千葉大学教育学部附属中学校 校長

## 藤川 大祐

専門は教育方法学で、新しい授業・教材を開発する「授業実践開発」が主なテーマ。青少年のインターネット利用やいじめ防止対策などについても実践的な取り組みに関わる。趣味はテレビドラマ鑑賞、アイドルの応援など。



こども家庭庁が2023年4月に新設される。子育て支援の体勢がなぜ見直されたのか、そして教育現場の課題へ先生方がどのような思いで向き合っているのかを、千葉大学教育学部教授であり、現役の千葉大学教育学部附属中学校校長でもある藤川大祐教授に伺った。

### こども家庭庁に期待される役割

——まず、こども家庭庁が創設される背景を教えてください。

1990年に少子化問題が浮かび上がり、国として様々な取り組みがなされてきました。しかし一向に歯止めがかからず、将来を担う子どもが減り続けています。また子どもの貧困やヤングケアラーの問題など、今まで見えていなかった子どもを取り巻く問題が次々と明るみに出ました。さらに、幼稚園、保育園、認定こども園の所管が異なることに代表されるように、子どもの問題に対応する府省庁がバラバラで縦割り状態が進み、子育て支援が十分に行き届かない課題も浮き彫りになっています。

そこで、支援が子ども自身に漏れなく行き届くよう部門を一元化し、全ての子どもが健やかに成長できるようにということで、「こども家庭庁」が創設されたということです。

——こども家庭庁の創設で、どのような課題が解消できると期待されますか。

こども家庭庁が定義する「こども」とは、年齢で区分されておらず妊娠前から青年期にわたる成長過程を対象としています。例えば、障害のあるお子さんに対しては医療・療育・教育・福祉と各分野の支援を切れ目なく受けられる態勢が

整えられ、誰一人として取り残されない社会の実現が期待されます。

また、縦割り行政のために情報共有が円滑になされなかった児童虐待問題や、文部科学省が対応しながらも課題が残るいじめ問題についても、改善を期待しています。

### 教育現場の最前線で見えてきた変遷

——先生は約30年にわたり教育を研究され続けてきました。どのような思いを持って教育の世界に入られたのでしょうか。

実は私のスタートは障害児・者の社会教育にあります。東大文一\*の学部生だった1984年から、大学のサークルで武蔵野市にあった知的障害をお持ちの方が通う共同作業所でボランティアをしながら、土曜日に開催される社会教育活動の運営をしていました。1979年に養護学校教育が義務化され、それまで教育を「猶予・免除」とされがちだった知的障害や身体障害のある子どもが実質的に学校教育を受けられるようになった頃でした。

当時、成人した障害者に対する国からの就労支援はまだ不十分で、民間レベルで行っていました。そのような時代背景の中、私たちは無認可の共同作業所でボランティアをしながら、そこで働く方々に対する社会教育活動として、個々の障害の程度や特性に合わせてうどん作りや

演劇などの多様な活動を企画・実施しました。今の言葉でいうと、「協同的な学び」と「個別最適な学び」を同時に行う試みといえるかもしれません。

一人一人の顔を思い浮かべ、楽しみながら学べるにはどうしたらいいかを考え、地域の方々の協力を得ながら活動を企画、実践することは、本当に楽しかったですね。そうした経験があった上で、大学の授業で新しい授業づくりや教育方法を開発する授業実践開発に興味を持ち、大学3年生からは法学部でなく教育学部に進み、そのまま教育を実践的に研究するようになり、今に至ります。

※東京大学文科一類：基本的に3年次からは法学部に進み、法学や政治学を学ぶ

——若い頃のボランティア活動が、先生の人生に大きく影響を与えたのですか。この30年で、大きく変わったと感じることはありますか。

先ほどの障害児教育の話ですと、30年前は知的障害や身体障害に焦点が当たっていましたが、近年は発達障害も注目されるようになりました。発達障害という言葉自体、30年前には耳にしたこともなく、落ち着きがない子や黙って何も話さない子の中で何が起きているのか教育現場では理解されていませんでした。

次第に発達障害について明らかになるにつれ、私としても、もっときめ細やかな教育や授業体制が必要だと認識を改めました。

そのほかにも貧困、虐待、ヤングケアラーの問題などが表面化しました。本学でも教育学部などの教員によって、関係する研究が進められています。

また、2000年頃からIT化が急速に進み学校

の中にコンピューターが入ってきたのは、教師側の立場からも大きな変化でした。授業でITが活用されるようになっただけでなく、先生たちがほかの学校の先生とSNSなどで交流するようになり、学校のあり方や教師の働き方をよりよくしようと考える機運が高まりました。それがブラック校則や部活動を含めた長時間勤務の見直しにつながっています。

### 勉強会で社会の潮流をキャッチアップ

——先生の著書や監修された書籍では、同調圧力やコロナいじめ、性の多様性といった今の子どもが抱えている課題をタイムリーに取り上げています。どのように「今」の問題を捉えているのでしょうか。

教育の世界は、何もしないと教師と生徒だけの閉じられた世界になりがちです。それでは社会で問題になっている事柄に対応するのが遅くなります。一つの対応策として、私は月に一度、外部から講師を招いて社会問題について広く学ぶ「千葉授業づくり研究会」を開催しています。すでに150回以上開催し、私のライフワークともいえる取り組みになりました。



——150回以上も続く「千葉授業づくり研究会」、直近ではどのようなテーマを取り上げていますか。

2022年はロシア・ウクライナ問題を受け、国際情勢についてももう一度しっかり考える機会にすべく関連したテーマを選びました。例を挙げると、国際社会における日本の役割や、緊迫する国際情勢を子どもにどのように伝えるかを朝日新聞社の論説委員やJICA(国際協力事業団)の方などの話をうかがい、議論の場を持ちました。

社会の半歩後ろをついていけるよう、教師も学び続ける時代です。参加した教師が研究会で出会った方々と新しい授業を生み出すなど、ネットワーク作りにも大きく役立っています。教員や学生だけでなく、一般の方も参加できる研究会です。興味を持たれたらぜひWebサイト(https://ace-npo.org/)をご覧ください。

### 学校運営は民主主義であるべき

——先生は附属中学校の校長も兼任されています。どのようなことに留意して学校運営をされているのでしょうか



文部科学省で行われた記者レクでアントレプレナーシップ教育について説明する藤川教授(2023年2月1日)

端的に申し上げれば、「民主主義が機能する学校」を重要視しています。つまり、学校に所属する生徒・教員が学校のあり方について自ら考え、決定し、行動できる環境をつくることを大切にしています。

例えば、一人に一台タブレットを導入する際も、関係の教員の意見をもとにICT推進生徒委員会を立ち上げ、生徒が主体となってよりよい活用方法を決定できるようにしました。今は、三宅健次副校長にリーダーシップをとっていただき、「デジタルシティズンシップ教育\*」の実践的研究を進めています(参考▶https://www.cn.chiba-u.jp/story\_221128/)。

生徒のことは生徒自身が決める「自己決定権」がこれからの学校運営、ひいては子育て全般に欠かせないと考えています。こうした学校運営のためには、教師と私(校長)の関係も民主主義的でなければなりません。自由に発言できる心理的安全性が確保された環境が大切です。\*インターネットやデジタル機器などの適切な使用方法を理解し、正しく活用してよりよい社会を創る担い手となることを目指す教育

——国立大学の附属小中学校は、いわゆる「モデル校」という位置づけです。先生はモデル校にはどのような役割があるとお考えでしょうか。

これまでは先進的な授業にばかり注目が集まっていましたが、これからは授業内容という狭い枠にとどまらず、学校のあり方そのものを提案することもモデル校の役割だと考えています。先ほどのICTを例に挙げると、「タブレットの導入をどのような校内体制で進めましたか」と質問されたときに、回答できないのではモデル校としての存在意義が危ういのではないのでしょうか。

ICTのほかにもいじめ対策や教師の働き方改

革など、地域の学校からの相談に解決案を提示できるのが、モデル校として求められる役割です。附属中では、生徒の抱える課題を迅速に組織的にケアする「教育相談部会システム」を充実させており、学会などでも取り組みの様子を発信しています。教職大学院の学生や教育委員会の担当者などの視察も受け入れており、取手市教育委員会では同様のシステムを取り入れていただいています。課題にいち早く気づき、有効な対応をタイムリーに打てる学校運営を心がけています。

——最後に、先生の描く教育の未来を教えてください。

テクノロジーの進化やICTの普及をプラスの方向で活用し、障害の有無、言語の違い、国籍や文化の違いなどを多様性として受け止められる、懐の深い社会にしていけたら良いと考えています。そのため何ができるか、私も常に学び、考えて実践していきます。



### 学生へのメッセージ

コロナ禍、少子高齢化、情報化、グローバル化など、子どもや教育をめぐる状況は急激に変化しています。こうした変化の中で求められる教育を、学生の皆さんをはじめとする多くの方々とともに、創造していきたいと考えています。

千葉大学と社会をつなぐ、研究の魅力発信オウンドメディア CHIBADAI NEXT はこちらから

日本語版 英語版

千葉大学の様々な情報について、一般の方にもわかりやすく、身近に感じていただけるような記事を発信しています。

AWARD

### 西川恵子名誉教授が文化功労者として顕彰

2022年11月、西川恵子名誉教授が令和4年度文化功労者として顕彰されました。これまで開発された装置や新しい方法論を通し、複雑凝集系の構造化学を次々に開拓した功績が、広く社会・文化に与えた影響を評価されたものと考えられます。



実験室で笑顔の西川名誉教授

1996年に本学教授として着任後、2014年に退職されるまで、「ゆらぎ」をプローブとする複雑凝集系の構造や物性の研究と学生指導に尽力され、ご退職後も変わらず研究活動に力を注がれています。

INFORMATION

### タイ王国チュラポーン王女殿下が来訪

タイ王国チュラポーン王女殿下が、代表を務められているチュラポーン研究所およびチュラポーン大学院大学と千葉大学の大学間交流協定署名式のため、2022年12月19日に来訪されました。王女殿下のご来訪は2013年、2019年に続き3度目です。今回はチュラポーン研究所、チュラポーン大学院大学および本学の間で更なる交流を促進するため、3機関での協定締結を行いました。3機関の協力関係は更に強固なものとなり、両国の友好関係にとっても、大変有意義なご来訪となりました。



写真前列着席者、左からチュラポーン王女殿下、中山俊憲学長

EVENT

### 森鷗外没後100年記念シンポジウムをドイツ・ベルリンで開催

予防医学センターは、在ドイツ日本国大使館の後援により、森鷗外没後100年記念シンポジウムを2022年9月28日にベルリン日独センターにて開催しました。鷗外の曾孫にあたる森千里予防医学センター長が「ドイツから輸入された近代医学と公衆衛生に基づいた街づくり」と題して、明治初期に既に「予防医学」を重要と考えていた鷗外の業績について講演しました。大使館で行われたレセプションには、千葉大学とシャリテ・ベルリン医科大学の学生も招待され、貴重な交流の機会となりました。



森千里予防医学センター長の講演



### 西千葉キャンパスの風景の変貌

戦後、千葉大学が誕生した際の校地は、亥鼻・松戸・小仲台・四街道などに分散していました。西千葉地区は、東京大学生産技術研究所跡地に少しずつ校舎が建てられ、松戸から工学部が移転した1965年に完成します。興味深いのは、完成当初、大学本部と工学部の間を通る弥生通りのけやき並木と桜並木の大きさが今と全く異なっていたことです。60年近くの歴史を経て、西千葉の風景も日々変貌しつつあるのです。(大学院国際学術研究院 見城悌治)



けやき並木(左)に比べて桜並木(右)は低い(1976年撮影)(出典:田町・松戸・西千葉「写真で見る七十年史」—千葉大学工学部のあゆみ)

EVENT

### 「災害治療学シンポジウム in千葉2022」を開催

千葉大学災害治療学研究所は、2022年11月19日に「災害治療学シンポジウム in千葉2022」を開催しました。第1部では、「自然災害やパンデミックによる災害治療現場から得た教訓を生かして」と題して同研究所の研究者らが講演を行いました。第2部では、神谷俊一千葉市長ならびに伊藤友則香取市長より地域の防災への取り組みをご紹介いただいた上で、事前に地域住民から寄せられた質問について講演者を交えたディスカッションを実施しました。会場の外では、REMATやDMATの特別展示やデモンストラレーションも行われました。



神谷市長、伊藤市長を交えたディスカッションの様子

EVENT

### 教育学部創立150周年記念式典を挙行

教育学部は、令和4年度に創立150周年を迎えたことを記念し、2022年10月22日に150周年記念式典を挙行了しました。第一部では、熊谷千葉県知事、神谷千葉市長より御祝辞を頂くとともに、記念事業の紹介が行われ、詩人の谷川俊太郎氏が作詞、本学の山本純ノ介教授が作曲した、千葉大学教育学部の歌「小さな大人 大きな子ども」が披露されました。第二部では、学生が主体となり、吹奏楽団などの演奏、音楽科有志による演奏や合唱、保健体育科有志によるダンスが披露され、会場は大いに盛り上がりました。



千葉大学教育学部の歌「小さな大人 大きな子ども」を披露

OBOG MESSAGE

### 食の安全・安心を、さらに高いレベルへ。横浜冷凍株式会社 比留間 咲季さん

#### 千葉大学の思い出

園芸学部食料資源経済学科に入学し、授業を通して食や農に関心を持ちました。夏休みに離島に長期滞在し、現地の農家さんに声をかけてお手伝いさせていただいたことはいい思い出であり、勇気を出して挑戦したことのひとつです。挑戦する前にあきらめてしまう性格でしたが、やりたいことに意欲的に取り組む学科の友人たちから刺激をもらい、一歩成長できたと思います。

#### 現在の仕事について

私の所属する管理部門は、当社の柱となる冷蔵倉庫事業、食品販売事業、通関事業の業務をサポートする部門です。日々の業務に加え、成長する会社や変化し続ける社会に対応できるよう、規程の見直しや業務改善にも取り組んでいます。手順通りにこなすのはもちろんのこと、改善できそうなことがあれば、小さなことでもトライアンドエラーの精神でやってみることを心がけています。

#### 学生へのメッセージ

コロナ禍に入り4年目、未だ制限のある中での学生生活は不安なことも多いと思いますが、興味関心のあることに前向きに取り組み、ぜひ千葉大生活を思い切り楽しんでください。大学で学んだことが仕事に直結してもしなくても、大学時代の経験は社会に出てから役に立つと思います。横浜冷凍は食の安全供給を目指し、横浜から全国、世界へ展開しています。熱い思いがあるからこそ、「ヨコレイ品質」を高めながら、お客様に高品質な食を提供することができます。ぜひ、私たちと一緒に、「おいしさ」をつないでいきませんか？

AWARD

### アカデミック・リンク・センター／附属図書館がライブラリアンシップ賞を受賞

先駆的な取り組みで新たな大学図書館の姿を具現化し継続したとして、アカデミック・リンク・センター／附属図書館が、Library of the Year 2022 ライブラリアンシップ賞を受賞しました。同センターでは、生涯学び続ける基礎的な能力と知識活用能力を持つ「考える学生」および深い専門性と俯瞰的思考力を備えた「知のプロフェッショナル」の育成を目標に、「資料・情報」「空間・場」「人・サービス」の高度化に努めてまいりました。今後も、教育・学習支援機能の強化・拡充と大学図書館界の発展に貢献できるよう取り組んでいきます。



木製のトロフィーと表彰状

EVENT

### 3年ぶりに実地開催となった大学祭

コロナ禍前の2019年度の開催以降、中止や一部キャンパスのみオンライン開催などを余儀なくされていた大学祭ですが、感染対策を行った上で、2022年11月、千葉大祭(西千葉)・亥鼻祭(亥鼻)・戸定祭(松戸)・センター祭(柏の葉)のすべてを実地で開催することができました。学生たちは日頃の課外活動や研究の成果を披露したり、企画物や模擬店、生製品の販売を行ったりしました。天候にも恵まれて多くの来場者で賑わい、キャンパス内は笑顔であふれました。



千葉大祭(西千葉)の様子



比留間 咲季(ひるま・さき) 管理部門 総務部  
2018年 園芸学部 食料資源経済学科卒業  
2018年 入社



ちばりサーチパーク物流センター 2023年3月竣工(イメージ)

横浜冷凍株式会社  
https://www.yokorei.co.jp/

東証プライム上場。環境に配慮した最新設備と抜群のノウハウで、お預かりした食材・食品を冷凍/冷蔵保管する業界第2位の【冷蔵倉庫事業】と国内外から食材を仕入れ、販売する【食品販売事業】、輸入・輸出時に関わる業務の手続きをする【通関事業】を展開しております。創業以来75年にわたる経験と、日本全国80カ所に及び事業所ネットワークを活かし、食品流通のエキスパートとして一翼を担っています。



# CHIBA TOMO NEWS

千葉大学マスコット「ニシ」、「イノ」、「マツ」より  
ニュースをお届けします！

vol.11

千葉大学基金はチャレンジを支え、  
人を育てる基金です



## たくさんのご寄付や応援メッセージをありがとうございます！

卒業生、保護者の方々、その他学内外の皆様からたくさんのご寄付を賜りました。  
心よりお礼申し上げます。

千葉大学は、学生が学業に専念できるよう、これからもサポートしてまいります。

令和5年1月末現在の  
寄付状況

寄付件数 **1,967** 件 寄付総額 **3億472万円**

### 皆様からのご支援を受けた学生からのお礼のメッセージを紹介します。

融合理工学府M2年 阪谷 新之助さん

The 2022 International Symposium on Antennas and PropagationIIに参加しました。

アンテナ伝搬における機械学習応用のセッションにて「機械学習による電磁波を用いた海中位置推定」について発表を行い、他の研究者から貴重な意見をいただくことができました。

開催地はシドニーであり、旅費や生活費はどうしても高額になってしまうのでご支援は非常に助かりました。誠にありがとうございました。

今回の国際会議参加で研究へのモチベーションはさらに向上し、求められるクオリティもある程度つかめました。現在の状況と目標とのギャップを埋めるために精進を続け、最終的には今回の国際会議でも評価されるような、世界に通用する研究者を目指したいと思います。



▲ 口頭発表の様子

医学薬学府D2年 貝塚 祐太さん

私は「放射性核種」と「薬」を組み合わせた、がん治療薬の開発研究を行っています。

いただいたご支援を活用し、フランスで開催された国際学会に現地参加させていただき、研究成果を発表いたしました。オンラインで開催された本学会は、研究者の熱をひしひしと感じさせるものでした。発表後にはフロアの研究者から質問をいただいたり、懇親会では発表を聞いてくださった先生方から声をかけていただいたりと、ご支援いただいた研究の成果が、世界の研究者に対しインパクトを与えていることを直接感じることができました。

本学会への参加は、私にとって非常に有意義なものでした。この場をお借りしまして、感謝申し上げます。難治性のがんに苦しむ患者様を救うアスタチン標識薬剤を、1日でも早く社会に実装することを目標に研究を続けてまいりたいと思います。



▲ 国際学会で発表する様子

インタビュー動画  
公開中!



CHIBA TOMOものがたり 15時限



16時限へと続く



**ニシ** お花見と言えば三色団子。春らしい色合いで気分も上がるね！  
**イノ** お花見と言えばおにぎり。兄弟と好きな食材の取り合いになることも。  
**マツ** お花見と言えば桜餅。関東風も関西風もどちらも好きだよ！

CHIBA TOMOとは…

2019年に千葉大学に誕生した、3つのキャンパスをかたどったマスコット、うさぎの「ニシ」、かめの「イノ」、さいの「マツ」の3人組。

### 千葉大学医学部附属病院とコラボ!

## CHIBATOMOが千葉大学病院へ初来訪!

2022年11月14日、千葉大学医学部附属病院に病院で過ごす安らぎの場として、中庭「れんがの庭」が誕生しました。そのオープニングセレモニーに、ニシ・イノ・マツも呼んでいただきました!



中庭「れんがの庭」



オープニングセレモニーで職員たちから歓迎を受けるニシ・イノ・マツ



オープニングセレモニーの様子

千葉大学病院の広報誌『いのはなハーモニーvol.67』の表紙に  
CHIBA TOMOが初登場!

いのはなハーモニー  
ここにいますよ!

CHIBATOMOのみならず  
これからはもっとなかまよく  
なりたいなよ!



**ぴなこちゃん**  
千葉大学病院公式キャラクター「みなみまちなかまたち」の一員で、ピーナッツ3きょうだいの長女。うたとダンスが好きなお姉さん。

「みなみまちなかまたち」

についてはこちら!



「いのはなハーモニー」は院内で冊子を配布しているほか、千葉大学病院の公式Webサイトでもご覧いただけます。

表紙撮影のオフショット♪



(100)  
校友会 SNSで  
情報発信をしています

千葉大学校友会では卒業生・修了生の皆様をはじめ、在学生や千葉大学を応援していただく皆様へ情報発信を行うため、「千葉大学校友会Facebook・Instagram」を開設していますので、ぜひフォローをお願いします。また、Googleformよりメールアドレスをご登録いただいた方に情報発信をいたします。こちらも併せてご登録ください。

Facebookの  
フォローはこちら



Instagramの  
フォローはこちら



メールアドレスの  
登録はこちら



お問い合わせ先 千葉大学基金室

メール kikin@office.chiba-u.jp

043-290-2014

ホームページ https://kikin.chiba-u.ac.jp

千葉大学基金

ご不明な点がございましたら、遠慮なくお問い合わせください。

住所 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33





# CHIBA UNIVERSITY

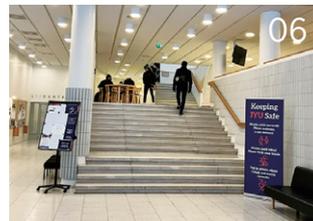
## 75 year anniversary

1949 - 2024

## INDEX VOL.62

### 02 千葉大学のキャンパスライフ 2023

西千葉、亥鼻、松戸キャンパスから4人の千葉大生の学生生活を紹介します。今回は、コロナ禍で変化した授業風景や課外活動の様子をインタビュー。中国と韓国からの留学生も登場します。等身大の千葉大生のキャンパスライフをぜひご覧ください。



### 06 留学を経験した学生に聞いてみよう！ 「全員留学」ってどんな感じ？

2022年度夏から渡航プログラムの一部が再開！2人の千葉大生が最新の留学体験をレポートします。さらに、千葉大学の留学サポート体制やオンライン留学プログラムについてもご案内します。



### 08 千葉大学 OBOG インタビュー

2022年に小説家としてデビュー10周年を迎えたOGが登場。どんでん返しのあるストーリーに惹かれ、ミステリー小説を中心に作品の幅を広げ、現在は千葉大学時代に学んだパレスチナ問題をテーマにした作品に挑戦中。



### 10 研究者インタビュー — CHIBADAI NEXTより—

2023年4月に新設されたこども家庭庁に期待されるものとは？コロナ禍や情報化、グローバル化が進む現代の学校運営に求められるものとは？教育現場の最前線で30年間にわたり活躍してきた藤川教授がインタビューに答えます。

—千葉大学 教育学部 教授／千葉大学教育学部附属中学校 校長—



### 12 TOPICS / もっと知りたい千葉大学

### 14 CHIBA TOMO NEWS

※誌面に記載の所属、職名、学年などは取材時のものです。

[ 表紙 (左上から時計回りに) ]

- 林 真帆 (はやし・まほ) さん  
法政経学部 3年
- 武藤 悠陽 (むとう・ゆうひ) さん  
園芸学部 3年
- YEO RYUNGGOO (ヨ・リュンク) さん  
看護学部 3年
- 張 道揚 (チョウ・ドウヨウ) さん  
理学部 3年



特集で紹介した千葉大生4人が表紙です。コロナ禍で入学し、入学当初はオンライン授業に戸惑ったり、課外活動や渡航を伴う留学に制約があったりと、イメージしていたキャンパスライフとは異なる部分もあったようです。そのような中でも、千葉大学での学びを通して専門分野への興味関心を深め、課外活動やアルバイトなどにも取り組み、学内外で友人関係を築いてきた等身大の千葉大生の姿を紹介します。(撮影：西千葉・亥鼻・松戸キャンパス)

# ちばだい プレス

CHIBADAI  
PRESS  
千葉大学  
広報誌

編集・発行／千葉大学 広報室

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1番33号

TEL: 043-251-1111(代表) E-mail: koho-hp@office.chiba-u.jp

ご意見・ご感想をお寄せください

www.chiba-u.ac.jp